

厚生文教常任委員会 行政視察報告書

1 視察日程

平成30年4月27日（金）

2 視察先及び目的

視察先： 河北町学校給食センター
日東ベスト天童工場

目的： 学校給食センターの現場視察と給食用食材の供給工場視察

3 視察者

委員長 榎 正義

副委員長 東海林信弘

委員 丹野 貞子、増川 修、齋藤 隆、細矢 誓子、石垣 光洋

学校教育課 佐藤 学校教育課長、

給食センター 竹田 給食センター所長、石山 栄養教諭

議会事務局 中野 局長補佐

4 視察内容

<河北町学校給食センター>

○給食センターの概要説明を竹田給食センター所長よりしていただいた。

- ・平成元年、町内6小学校に給食の提供を開始し30年になる。
- ・給食対象者数は1,558人（平成30年4月）。調理能力は2,000食。
- ・給食費は小学校が完全給食で1食273円。中学校は補食給食（おかずのみ）で1食265円。
- ・各種会議の実施。

運営協議会（年2回）、給食主任会（年3回）、献立検討委員会（年11回）
配膳員会議（4月給食開始前に実施し、衛生研修会も実施）

- ・栄養教諭による指導。（毎月各学校へ1～2回の巡回指導と食育授業など）

○栄養教諭の石山さんからは、調理工程や給食献立などの説明をしていただいた。



調理行程など概要を写真でわかりやすく説明いただきました

<日東ベスト天童工場>

○天童工場の概要説明を、熊谷工場長よりしていただいた。

- ・昭和32年東日本缶詰(株)として設立され、フルーツ缶詰の生産が開始された。



工場長さんから工場の概要、商品の概要を説明いただきました

のちに、生産品目も冷凍食品、カップゼリー、牛丼（袋詰め）と生産され平成6年に、日東ベスト天童工場となり、現在では牛丼とデザート主力の工場になっている。（平成30年度は750品目を生産予定。）

- 天童工場からは本町の学校給食用として、カップゼリーやケーキなどの供給を受けている。
- 現在は、学校給食用の食品のほか高齢者向けの食品も開発、製造し、多くの高齢者福祉施設にも提供しているとのこと。

5 所感

<河北町学校給食センター>

○施設は既に30年を経過しており、必要に応じて修繕が実施されているが、老朽化が目立っている。一般的には40年を目処に改築されている。

○野菜などの地産率は30%から40%で、特に白菜などは60%と高くなっている。

○調理室床がドライシステム（厨房方式）になっており、作業途中で清掃を実施しながら安全と清潔を保っていた。

（衛生管理体制が整っていた。）

○各種アレルギー対策については、各学校との情報の共有を図りながら万全を期しているとの説明があった。

<日東ベスト天童工場>

○従業員に対する衛生管理や製造工程の品質管理体制はしっかりと整備されている。（HACCP・ISO9001など）

○積極的に地元の人材雇用にも努めていた。

○企業のモットーとして地域とともに歩み、良き企業市民として積極的に社会貢献活動に取り組むとしている。工場長の説明を聞き理解できた。

○本町の学校給食用食材（製品）として、20数品目を納入している日東ベスト工場の視察は大変有意義であった。



おいしく食べてもらうため、一生懸命作っていました



給食に定番のデザート各種ほか。日東ベストの皆さん、お忙しいところありがとうございました

6 まとめ

- 河北町学校給食センターは平成元年に建設され、その都度改修・補強を行っている。今後、建物全体の老朽化への対応が必要になってくる。
- 石山栄養教諭を中心に定期的に小・中学校を訪問し、児童・生徒と給食と一緒に取り、その後、食育や学校給食について話し合いを行っているとのこと。そのきめ細かな対応に感心した。今後も継続していくことを望む。

- 本町の学校給食で多く使用されている食材・食品を製造している「日東ベスト」の工場視察は、何よりも食品の安全・安心を第一にする姿勢を実感でき、大変有意義であった。
- 給食センターでの懇談の中で、学校における完全給食の目的・趣旨は、主食のご飯（パン・麺）とおかずと一緒に提供されることで初めてその目的が達成できるものであり、現在、補食給食の河北中学校が、完全給食に早く実現することが望まれるとの話に各委員は共感した。
- 完全給食は国の食育推進基本計画への明記や、多くの市町村での実施を踏まえれば、河北中学校の完全給食を早く実現することを改めて認識し、引き続き委員会で調査、研究することとした。



地元の野菜が多く使われています。
生産者の皆さん、おいしいものをありがとうございます。
給食センターの皆さん、お忙しいところありがとうございました